

令和6・7年度とうきょうすくわくプログラム 新宿区立西戸山幼稚園

取り組みと成果の記録

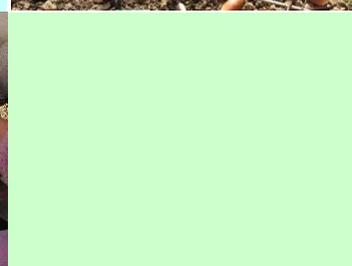
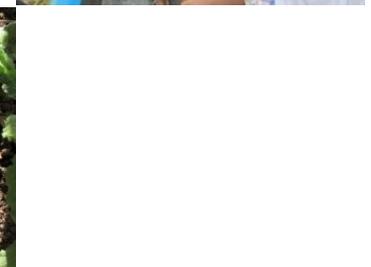
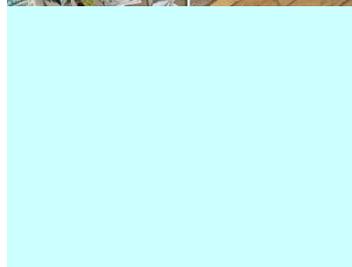
成果

「見て、これ何かな！」葉っぱの裏にとても小さなつぶつぶ。拡大して見てみると・・・「卵だ！」

「ねえ、キジバトが巣を作っているよ！枝を運んできた！」「本当だ！がんばれ」

幼児が出会った自然に自分から興味・関心をもち、問いが生まれ、それに向き合ったり行動したりする姿見られるようになった。幼児の感性が豊かになっていると感じる。そして、気づきを友達や保育者に伝え、それを聞いた友達が共感し、一緒によく見たり考えたり調べようとして共に心を動かす姿が見られている。

また、保育者としての成長も大きな成果。私たち人間も自然の仲間であり、自然とのつながりを感じながら、幼児と一緒に暮らす楽しさを味わうようになり、落ち葉一枚、小枝一本さえ大切なものと思えるようになった。幼児が多様な考えや思いを出し合い、継続的に意識をもつことで深く広く考えることにつながるといことが分かった。そのための環境づくりを探究し続けたい。新たな取り組みにチャレンジしたい。幼児の問いには全て意味や価値がある。保育者が答えを示すのではなく、丁寧に向き合うことで学びは深まり、新たな問いが生まれ、広がったり深まったりする。保育者が自然に関する知識が豊富であることよりも幼児の思いに共感したり、幼児の意見を尊重したりできる保育者でありたい。



取り組み



『問い』はどこに？

幼児：遊びの中で身近な自然に関わる中で「なぜ?」「どうして?」「不思議だな」と感じる。
 保育者：幼児の問いに寄り添い、共感する。保育者も問いをもつ。仮説を立てる。
 幼児同士・保育者と幼児との関わりの中で、問いがさらに問いを生む。



問いを考える

子どもたちの自然との出会い、つながりを感じる体験に
 (多様性・循環性・相互性・有限性)

- 池の改造(自然の生態系に) ・栽培 ・飼育 ・チョウの幼稚園
- 巣箱 ・腐葉土作り ・コンポスト ・何でもプランター
- 雑草園(草花遊び) ・ゴーヤのトンネル ・雨水タンク
- 『種まきしない花壇』 ・表現活動(身体表現、描画・製作等)
- ICT(タブレット端末、マクロレンズ、実物投影機、トレイルカメラ、電子顕微鏡など)
- 幼児が活動を振り返るためのドキュメンテーションなどの掲示

週案打ち合わせや

園内研究の時間に

- 日々のエピソードや事例を共有
- ドキュメンテーションの活用
- 保育者同士で意見を出し合う
- 環境構成の実践と工夫
- 保育者の援助

幼児が興味・関心を継続的にもつための環境の構成の工夫はどのようなものか、アイデアを出し合いながら、次の実践につなげるようにしている。

振り返る・共有する



テーマ

身近な自然との関わり

園庭で見つけた虫や鳥に目を輝かせる子どもたち。
 わくわくがあふれる身近な自然をテーマに探究活動に取り組みました。

環境をデザインする

専門家の先生からの指導・助言

- ・ 國學院大學 中野圭祐先生
- ・ プロナチュラリスト 佐々木洋先生
- ・ 園庭研究所 石田佳織先生
- ・ 日本野鳥の会会長 上田恵介先生
- ・ 植物生態学者 多田多恵子先生
- ・ 元保育士、庭師 小泉昭男先生
- ・ 国立環境研究所特別研究員 中西康介先生

探究活動を実践し、記録する

伸びる・育つ(すくすく)

× **好奇心・探究心(わくわく)**

- 好奇心をもつきっかけを増やす **なんで? どうして?**
- 考えを広げる **できるかな? こうしてみよう**
- 考えを深める **できた! つぎはあれをやってみよう!**

「探究活動」による心の育ち

時代の変化は激しく、不確実性が増す中で非認知能力の育成が生涯に渡るウェルビーイングに資するとして改めて注目されている。

非認知能力とは

- 自己にかかわる心の力 自尊心・自己肯定感・意欲・粘り強さ
- 社会性にかかわる心の力 心の理解力・共感・思いやり・協同性



引用: <https://www.sukuwaku.metro.tokyo.lg.jp/about/>

幼児のつぶやき、表情や行動、友達同士の考えの伝え合いの様子など、丁寧に読み取り、日々の記録に記載する。写真や動画でも記録する。

活動の記録を事例として書き記す。

